

研究課題	思春期の自閉症スペクトラム児の仲間関係構築への支援と有効性の検証
研究代表者	井澗 知美 (心理社会部 臨床心理学科 教授)

1. 研究目的

自閉症は幼児期だけの障害ではなく、生涯にわたって支援と理解が必要といわれているが、わが国では知的障害のない自閉症児は通常学級に在籍しており、学業面では課題がないことから支援の対象から外れていることがほとんどである。しかし、対人コミュニケーションに困難さをもつ自閉症児は、友だち関係の構築に課題を抱え、孤立または拒否といった経験をしやすい、いじめの被害にあったり、不登校や引きこもりなどの問題を抱えるなどのリスクが高い。

本研究でとりあげる PEERS は思春期特有の友だち関係を作り、継続するために必要なスキルをターゲットにしたプログラムである。米国では、プログラムの効果として、ソーシャルスキルの知識の増加、友だちと遊ぶ回数の増加、社会的応答性の改善など対人関係が改善されたことが報告されている (Laugeson, E.A. et al. 2009, 2012)。しかし、ソーシャルスキルとは、開発者である Laugeson 博士も強調しているように生態学的妥当性 (ecological validity) が必須である。

本研究では、コロナ禍であることを鑑み、オンラインでの実施とした。そこで、①わが国における PEERS プログラムのオンライン版の開発と課題、②オンライン版 PEERS の効果を検証すること、の2点を目的としている。

2. 研究方法

(1) 実施期間：2020年9月～2022年3月（第1期～第3期の3グループを実施）

(2) 調査協力者：自閉スペクトラム症と診断された中学生・高校生とその保護者16組

(3) 研究方法：プログラム開始前に事前面接を実施し、プログラムの目的と概要を説明し、研究協力への同意を得た。そのうえで介入前に調査票への回答を求めた。使用した尺度は、①SRS-2 対人応答性尺度 (Social Responsive Scale-2)、②CBCL /4-18 (Child Behavior Checklist)、YSR (Youth Self-Report)、③Vineland-II 適応行動尺度、④友だち作りに関する知識を測る TASSK、⑤遊びの実態に関する QPQ である。プログラム終了後にも同様の調査票への回答を求めた。また、参加したことによる行動や意識の変化、オンラインでの参加についての感想をたずねるインタビュー調査を行った。

(4) プログラムの実施：オリジナル版は対面での実施であるが、コロナ禍であったため、オンラインでの実施とした。第1期は土曜日の午後、第2期、第3期は木曜日の夕方の時間帯で1回のセッションは90分、全14セッションを実施した。

保護者と子どものグループを同時並行で実施した。保護者グループは共同研究者がリーダーを務め、子どもグループは代表者である筆者がリーダーを務め、研修を受けたスタッフがサブリーダーとして参加した。セッション内ではソーシャルコーチとして大学院生が加わった。

3. 研究成果と公表

(1) 子どもによる評価

① 情緒と行動の問題 (YSR)

PEERS 実施前後で子どもの行動特性が変化するののかについて調べるために、t 検定を行った (Table1)。その結果、「内向尺度」、「全問題尺度」において、実施前より実施後の得点が有意に低かった ($t(16)=3.52, p<.01, t(16)=3.21, p<.01$)。下位尺度に関しては、「不安/抑うつ」は実施前より実施後の得点が1%水準で有意に低かった ($t(16)=2.99, p<.01$)。「引きこもり/抑うつ」、「身体愁訴」、「社会性の問題」、「思考の問題」についても、実施前より実施後の得点が5%水準で有意に低かった ($t(16)=2.55, p<.05, t(16)=2.51, p<.05, t(16)=2.75, p<.05, t(16)=2.58, p<.05$)。一方で、「外向尺度」においては有意な差がみられなかった。

② ソーシャルスキルに関する知識の質問紙 (TASSK)

PEERS 実施前後でソーシャルスキルに関する知識の量が変化するののかについて調べるために、t 検定を行った (Table1)。その結果、実施前より実施後の得点が有意に高かった ($t(15)=10.29, p<.001$)。

Table 1. 子ども自身の評価の変化

	PEERS 実施前		PEERS 実施後		t 値
	平均	SD	平均	SD	
YSR					
内向尺度	73.94	13.15	68.24	11.35	3.52 **
I：不安/抑うつ	75.71	13.23	70.35	12.94	2.99 **
II：引きこもり/抑うつ	71.82	11.84	66.77	9.49	2.55 *
III：身体愁訴	66.71	12.34	62.12	9.55	2.51 *
IV：社会性の問題	69.94	12.73	63.29	10.70	2.75 *
V：思考の問題	72.00	12.68	65.59	11.34	2.58 *
外向尺度	65.94	14.24	62.59	13.52	1.96 †
VI：注意の問題	71.24	14.78	69.00	14.50	1.09
VII：規範違反的行動	60.58	9.57	60.06	8.42	0.36
VIII：攻撃的行動	65.59	12.23	63.18	11.93	1.72
全問題尺度	72.29	13.68	67.71	11.97	3.21 **
TASSK	18.00	2.85	24.44	2.48	10.29 ***

† $p<.10$, * $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

(2) 保護者による評価の検討

①情緒と行動の問題 (CBCL/4-18)

PEERS 実施前後で子どもの情緒と行動の問題に変化があるのかについて調べるために、t 検定を行った。その結果、全問題尺度、内向尺度、外向尺度では、有意な差がみられなかった。内向尺度の「引きこもり/抑うつ」において、実施前より実施後の得点の方が、有意に高かった ($t(16)=2.34, p<.05$)。

③ SRS-2 対人応答性尺度得点の変化

PEERS 実施前後で子どもの対人応答性尺度得点に変化があるのかについて調べるために、t 検定を行った。その結果、有意な差はみられなかった。

④ Vineland- II 適応行動得点の変化

PEERS 実施前後で子どもの適応行動に変化があるのかについて調べるために、t 検定を行った (Table2)。その結果、「適応行動総合得点」において、実施前より実施後の得点の方が、有意に高かった ($t(10)=2.42, p<.05$)。また、「社会性領域」についても、実施後の得点の方が有意に高かった ($t(10)=2.57, p<.05$)。その中でも、「対人関係」、「コーピング」の得点が有意に高くなっていった ($t(10)=2.52, p<.05$, $t(10)=2.55, p<.05$)。

Table 2. Vineland-II 適応行動得点の変化

	PEER 実施前		PEERS 実施後		t 値
	平均	SD	平均	SD	
Vineland- II					
適応行動総合得点	66.91	12.88	72.00	12.91	2.42 *
コミュニケーション	79.91	15.65	81.00	13.30	0.83
日常生活スキル	75.82	14.41	83.82	13.90	2.59
社会性	65.91	17.80	71.46	14.22	2.57 *
対人関係	9.82	1.66	10.64	1.57	2.52 *
遊びと余暇	8.91	4.76	9.64	4.13	1.70
コーピングスキル	11.36	2.17	12.55	2.16	2.55 *

* $p<.05$

今回の結果から、子ども自身の不安や抑うつ感が改善すること、友だち作りに関する知識が増えたことが示唆された。また、保護者の回答から、子どもの適応行動、特に社会性領域 (対人関係、コーピング) に改善が認められた。ASD の特性は変わらないものの、適応行動が増え、内向的な問題が改善するといえよう。

また、プログラム終了後、半年および 1 年後にインタビュー調査を実施したところ、学年が変

わる際に PEERS で学んだ知識を思い出して友だちを作ったという語りが数人からきかれた。どのようなプロセスで友だち関係を変えていったのか、語りから質的な検討を進めたいと考えている。

(3) 研究成果の公表

第 62 回日本児童青年精神医学会において発表した（「自閉スペクトラム症を持つ中高生を対象とした友だち作りのプログラム PEERS～オンライン版の試み～」2021 年 11 月）。

今後は、「オンライン版実施の方法と課題」をカウンセリング研究所紀要に投稿、「PEERS プログラム、オンライン版の有効性の検討」を児童青年精神医学とその近接領域に論文を投稿する予定である。

参考文献

Laugeson, E.A. et al. (2009) : Parent-assisted social skills training to improve friendships in teens with Autism Spectrum Disorders. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 39, 596-606.

Laugeson, E.A. et al. (2012) : Evidence-based social skills training for adolescents with autism spectrum disorders; the UCLA PEERS program. *Journal of Autism Developmental Disorders*, 42(6), 1025-1036.

ローガソン E.A.他 (2018) : 友だち作りの SST—自閉スペクトラム症と社会性に課題のある思春期のための PEERS トレーナーマニュアル. 金剛出版